

# 学 園 だ よ り

No. 7  
1975  
3月31日発行  
財 団 法 人  
中国四国酪農大学校



## 施設等の整備改善について

副校長 永井 仁

三月二十八日には第九期生の諸君を送りだし、四月五日には十一期の若い諸君を迎え、さらに三人の先生の異動があるなど学校の一番忙しい時期も終わりました。今年も昨年と同様というより、昨年にも増して積雪が多く、四月の二日まで降雪があり従って牧場の春の訪れも昨年よりは遅くなりましたが学校自体は春の息吹きで一ぱいです。

昨年の便りで五ヶ年計画で学校の整備を行うよう簡単にご連絡しておりましたが、既に二年を経過し学校の様子も段々変って参りました。昭和四八、四九年に行つたことは、牛舎環境の整備とふん尿土地還元施設の設置でした。具体的には卒業生の諸君が最も鍛えられた第一牧場のフリーバーン牛舎を自然流下式の繫牛舎に改めたことをご承知の通りですが、九期生の諸君の積極的な実習により牛舎とともに牛体が非常に清潔になり、「学校のホルスタインもこうして見ると良い牛だな」という

声が聞かれると同時に乳房炎等の病気が非常に少くなり乳量も安定して牧場自体に活気が満ち満ちて来ました。それに加えて岡山県からバキュームカーを無償で貸与していただきふん尿は総て土地に還元したため豪雪にも負けず牧草が力強く伸び始めております。

第二牧場の方は、四九年に第一牛舎の改造と中国四国農政局のご理解と岡山県のご好意によって飼料基盤整備事業を採り入れることができ、第一牛舎が見違えるように良くなるとともに、三〇〇トン入りのスラリーストア（新鮮ふん尿槽）が誇らしげに偉容を見せ、五〇年からは本格的なふん尿の土地還元ができることになりました。

さて五〇年が最も大きな事業で、既に岡山県からは待望して久しいハイペーラーの無償貸付をはじめ飼料基盤整備事業の第二年度を予算化していたのだというえ、さらに第二牧場第二牛舎の改造に対する無利子の融

### 目 次

施設等の整備改善	1
牧場の近況	1
第一牧場……奥一郎	2
第二牧場……杉山哲也	3
卒業生便り……住田益之	5
卒業生の贈呈品	5
大学日記……教務課	6
お知らせ	7
卒業生名簿	9

資もご決定いただいておりますが、最も大きいのは研修センター（男子寮兼用）と女子寮の設置とマイクロバスおよび四輪駆動トラクターの新設です。これに対しては、農林省のご理解を得て地方競馬全国協会と岡山県に絶大なご援助を仰いで、今年度中に実現することになり関係者一同大喜びです。

さらに五一年以降には、体育館の建設を含め種々の整備を計画しておりますので卒業生の諸君も多忙とは思いますが、是非学校をご訪問ください。

このように学校も再び春を取り戻しておりますが、施設整備を機会に構成県一〇県以外に広く全国から学

# 近況

冬期間の搾乳量が、昭和四四年以来第二位という好記録  
 (一頭平均一七〇一  
 八kg、日量四五〇)  
 四九〇kg)をあげ、  
 只今五〇年度に向つ

ホルスライン群  
 療で消失するようになりました。

## 第一牧場だより

生を募集することになりました。施設が良くなり、先輩が如何に立派に活躍しようとする輩が継がなければ何の価値もありません。全国的な募集に踏み切ったとは言え構成県の学生で定員を満したいと切に希望します。卒業生の方は出身校より必ず一名以上送って戴くようお願いいたします。

なお同窓会を各地で作っていただいておりますが、中・四国の酪農は我が校の卒業生で担って行くと言う気概を示すのは、このような横の連絡が大切でありますので、今年度は全地域に組織していただきたいと切望いたします。

最後に卒業生諸君のご健康とご活躍を祈っております。

て押せ押せムードで、場員一同(奥湯浅、川村、それに教務課より応援の新田、常守)張切っています。しかし、八期生を送り、十期生を迎えた昭和四九年の春は、惨々なスタートでした。

それは、前年度、アカバネビールによる流産症の多発で、空胎牛と流下式牛舎に改造した当時、乳頭の踏傷からの乳房炎発症牛が多かったこと、および数年振りの豪雪に続いた春の低温、霜害により牧草の伸びが悪く、生草給与の遅れたことが主な原因です。

このため、四九年度は早期受胎、乳房炎発生防止、および省力的牧草増産に主眼をおいて再建にあたりました。

具体的対策方法は、酪農経営者として、極めて当然な基本を忠実に実行することです。

例えば、乳房炎防止方法としては、(1)消毒液による乳房の前拭、後拭の徹底、(2)牛舎の清掃消毒、(3)運動場の排水乾燥、(4)牛体の手入れ、等を常時励行したことで、この成果は直ちに現れ、発生件数が低下すると共に、仮に発生しても、一〜二回の治療で消失するようになりました。

第一牧場では、現在三九頭の成牛、十頭の育成牛、それに一六頭の去勢牛の合計六五頭を飼養しています。第一牧場創立当時よりの優秀牛群も、寄る年令には勝てず、次第に姿を消しています。

しかし卒業生諸子が、手塩にかけられた懐かしい牛群が頑張っている。昭和三九年生れで九産している五三一号(マーセーズ・リーガル・メーフラワー)五二七号(セジス・チュンキー・フライプリー)六〇九号(マダム・コランサス・パレード)等です。

この老牛群が、子や孫のヤングなオール「カヤベ」になった時、第一牧場の第二期黄金時代が来るものと後継牛育成に力を入れていますが、四九年度産頭数二八頭中、二二頭が産だつたのには、いささか世の無情を感じています。

一方、肥育牛群は、飼料の高騰、肉価格の暴落のダブルパンチを喰い四八年度とは打って変って肩身の狭い思いをしています。

このため、経済連に出荷した肥育牛の枝肉を、農村還元肉として買戻し、市価の三〜四割安で、試食を兼ね、職員や学生はもとより地元の希望の方々に分配し、好評を得ました。

また飼料基盤整備事業により、七、八、九牧区の南側に一haの草地、飼料畑を造成すると共に、ふん尿の土地還元を積極的に行ない牧草の増産を図っています。

一連の増産対策と並行して、飼料圃の省力管理利用を促進するため、農具庫の奥に眠っていた、プロワーカー、ユニカ、フロントローダー、ヘイコンディショナー等の整備をし、サイレージ、乾草調整、堆肥運搬等に活躍しています。これから、今までにない機械化実習が生れて来るものと楽しみにしています。

とにかく第一牧場も年々姿を変えています。どうか卒業生の皆さん、再々訪ねて下さい。共にこれからの

### 飼料生産

長年借りていた蒜山山麓のけやき団地を、地元の農協に返還したため第一牧場の伝統的な真夏の炎天下での乾草収穫作業が、姿を消しました。代ってバキュームカー、チョッパーポンプによるふん尿散布が第一牧場の新しい実習風景として定着しています。

酪農経営について語り、切磋琢磨しようではありませんか。

(第一牧場奥記)

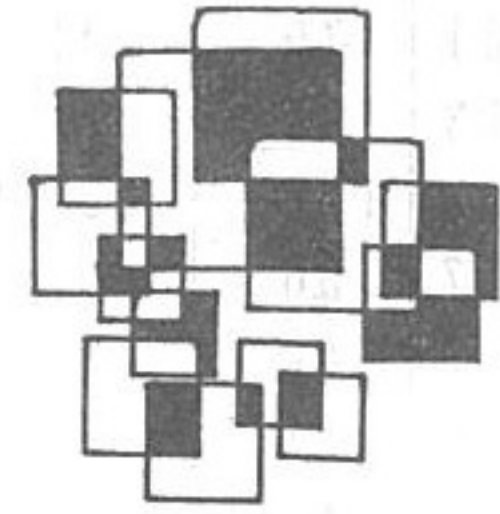
表1. ホルスライン産歴別構成

年次	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
頭数	2	2	3	3	2	3	5	3	6	29
比率	6.9	6.9	10.3	10.3	6.9	10.3	17.3	10.3	20.8	100

表2. ホルスライン生年別構成

年次	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	計
頭数	4	3	10	5	6	4	3	3	3	2	—	6	49
比率	8.2	6.1	20.4	10.3	12.2	8.2	6.1	6.1	6.1	4.1	—	12.2	100

# 牧場の



トウモロコシ刈取

表 3. 肥育牛出荷成績

No.	生時体重	出荷日令	出荷時体重	DG	枝肉単価	販売代金	備 考
1	44 kg	549 日	618 kg	1.04 kg	881 円	305,707 円	♂ キングビーフ制限給餌
2	52	546	612	1.02	880	293,920	♂ "
3	49	545	640	1.08	880	330,572	♂ "
4	37	575	520	0.93	1,100	328,460	♂ } フリーマーチン
5	36	575	520	0.93	1,100	314,050	♀ }
6	41	567	470	0.75	1,100	284,350	♀ キングビーフ制限給餌
7	42	557	598	0.99	1,100	359,920	♂ "
8							
計						2,216,979	

## 第一牧場だより

新聞のスキー場だよりもいつの間にか消えて、桜だよりに変り本格的な春が目前に迫って来ましたが、蒜

山地方の山並はまだ雪に埋れ、時折吹雪に見舞われています。然し彼岸を境に二メートル近く積った三木ヶ原の雪も急速に消え始め、露出した草地には牧草が伸び始めました。

この学園便りが皆様のお手許に届く頃は、牛が待ちこがれた放牧の季節になっていと思います。

さて、第二牧場の現況ですが職員数は従来通り六名（杉山、赤木、尾崎、居森、美土路、三牧）で、学生と共にジャージーを相手に頑張っています。

### 施設の状況

昨年の学園便りで、一部計画をお知らせしましたが、酪農大校整備計画の第一年次分として、第二牧場では第一牛舎の改造とスラリータンクの設置が完成しました。

第一牛舎の搾乳牛の休息室、通路、パーラ等の牛床、排尿溝を改修した結果、牛舎内の水洗が出来て非常に衛生的になりました。

またこれらの糞尿汚水は、スラリータンク（三〇〇トン）に送り草地

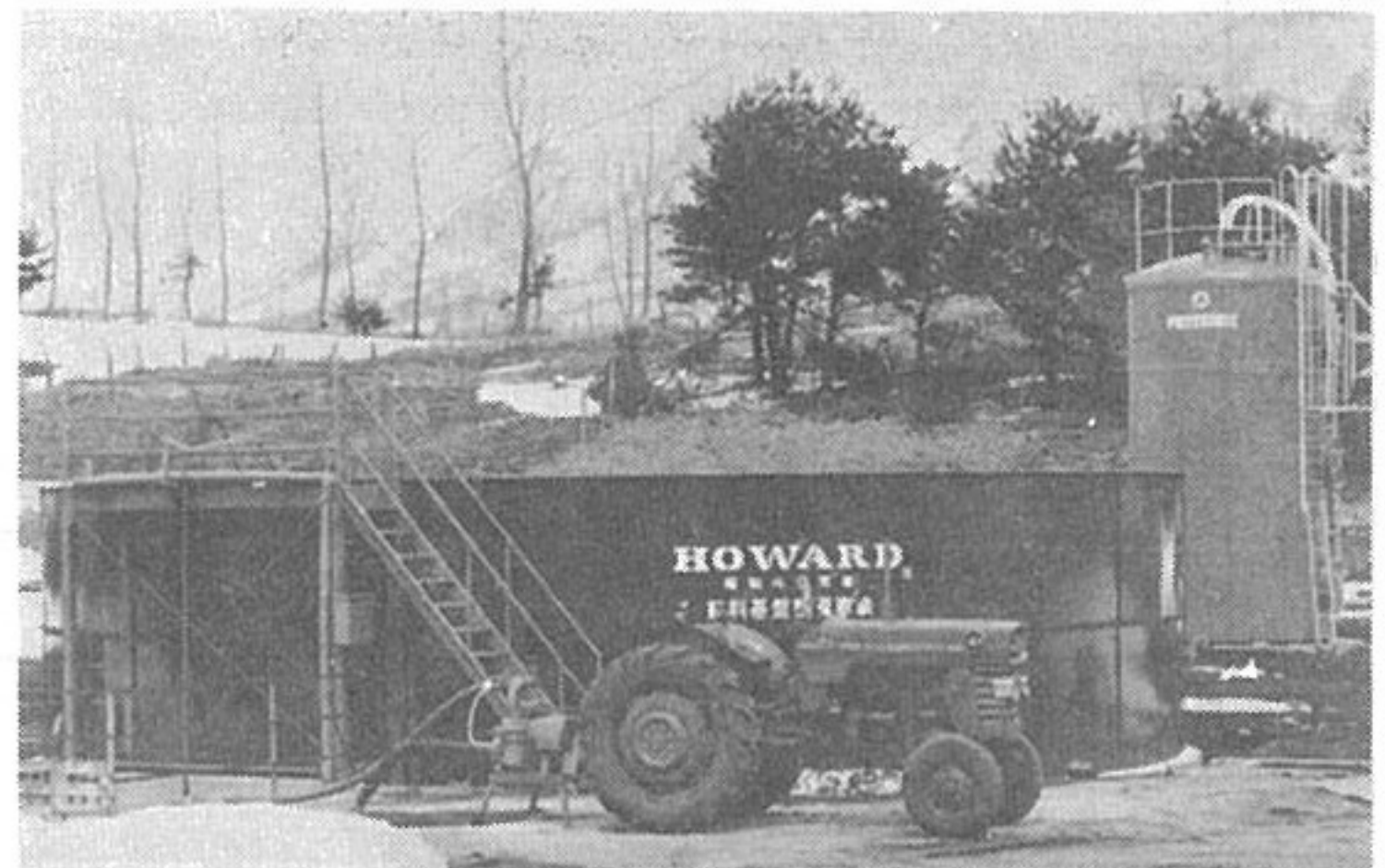
に撒布を始めました。梅雨の頃、毎年のように断水し、国休で貰い水をして搾乳をしていましたが、牧場の水道も取水場所を新たに建設してから水饑饉から解放された。

昭和五十年度は、整備計画の二年次分として、第二牛舎の全面的な改造と全草地の定置配管（四十九年度は一牛舎側の草地の一部に配管）および新たに四ヘクタールの草地造成など施設の整備に併せ草作りを進める計画です。

### 牛の状況

現在の飼養頭数は表一のとおりで搾乳牛は全頭一牛舎で飼養し二牛舎での搾乳を中止しています。なおパーラには連動スタンションを取り付けたので搾乳作業が非常にみやすくなりました。搾乳牛に高令牛が多いのは、ジャージー種の特徴である長命連産を証明していますが、後継牛も多いので計画的に更新する予定です。最も重要な乳の生産は図一、二のとおりで年間の生産量は低能力牛の淘汰および後継牛（初産）の改良が進み年々増加しています。しかし飼養形態が放牧方式であるため、放牧時期における草の生育および乾草

調整時期の天候が基礎飼料の生産と品質を左右し、乳量に大きく影響し



ラスリーストアー

ています。昭和四十九年度は、草地更新を十ヘクタール行つたため、草の不足を補う目的で青刈トウモロコシおよび飼料用カブを作り九月から十二月まで給与し、またバンカーサイロはサイレージの品質が悪かったため、第一、二牛舎の乾草庫を利用してビニールで覆って一番刈牧草の大部分をサイレージとし、二番刈牧草を乾草にした結果いずれも品質が良く、十月以降の乳量が例年よりかなり増加しています。

今後、スラリータンクの活用で、糞尿の土地還元効果と草地造成などにより、かなり草の生産増が見込ま

表-1. 現在牛の年令別産歴別構成(50.3.20現在)

区分 出生年次	年令別構成		産 歴 別 構 成											計
	頭数	比 率	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	
50	2	1.6%												
49	25	20.3												
48	21	17.0	4											
47	13	10.5	12	1										
46	13	10.5	2	11										
45	7	5.6		3	4									
44	5	4.0				3	2							
43	6	4.8					3	3						
42	6	4.8					4	2						
41	1	0.8						1						
40	3	2.4							1	2				
39	7	5.6								5	2			
38	9	7.2								4	4	1		
37	3	2.4							1					2
36	3	2.4										1		2
計	124	100	18	15	4	3	9	6	2	11	6	2	4	80
産歴比率(%)			22.5	18.8	5	3.7	11.2	7.5	2.5	13.8	7.5	2.5	5	100

れるので、ジャージー種の特性である草の利用性が十分發揮され、年間四千キロ搾乳も間近と思います。今年の紅葉の頃は牛舎改造も一応完了し第二牧場も面目を一新していると思しますので、是非一度お尋ね下さい。

皆様の御健康と一層の御活躍をお祈りいたします。

第二牧場長 杉山哲也

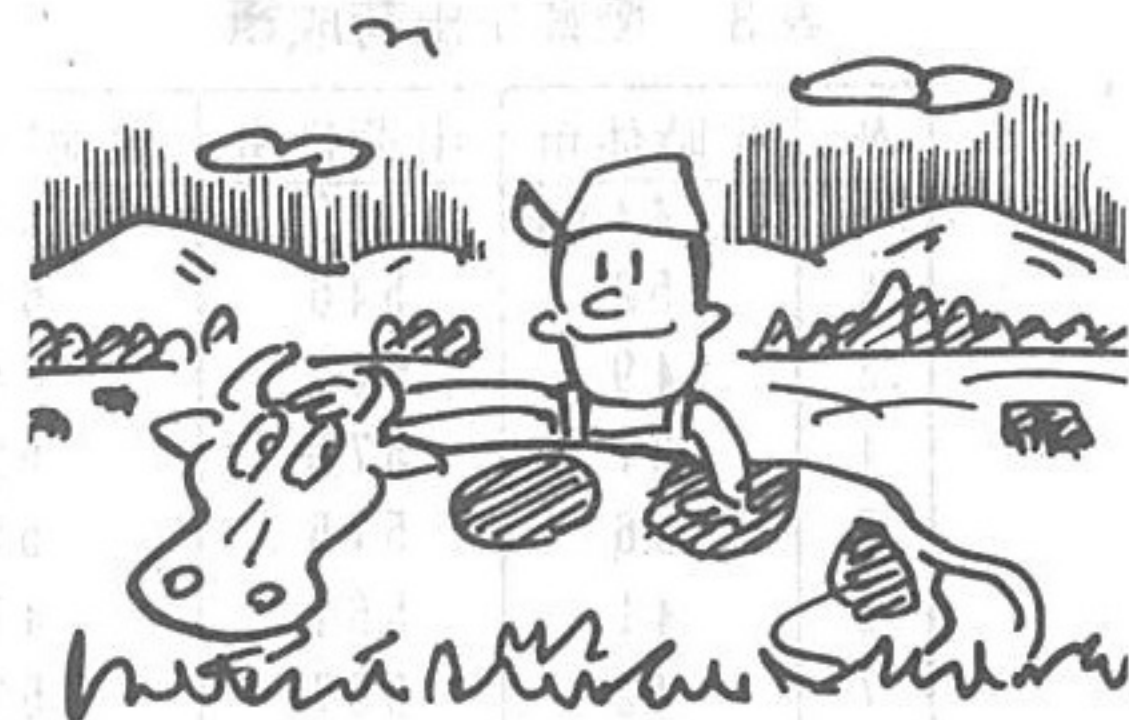


図-1 年次別月別産乳量

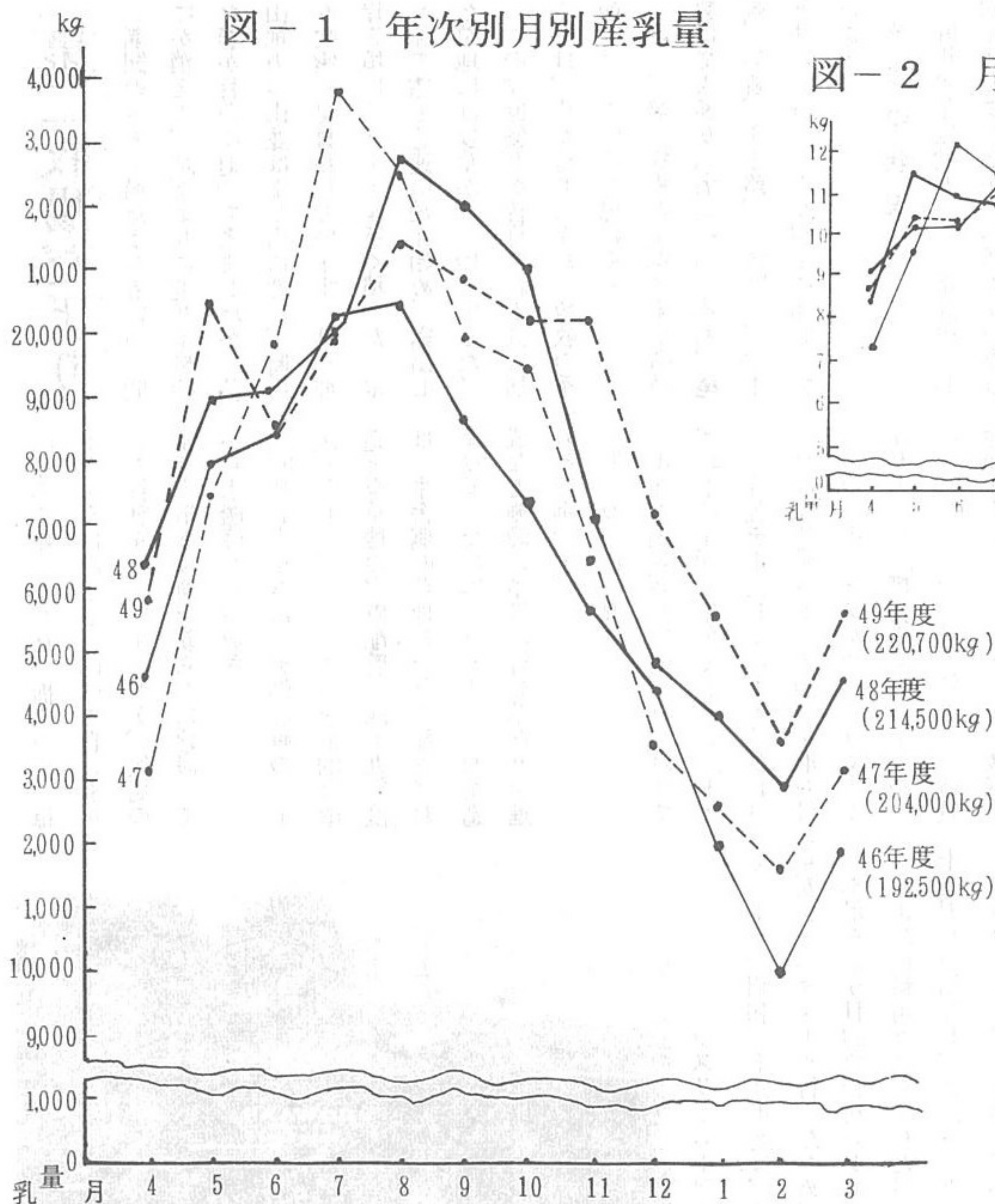
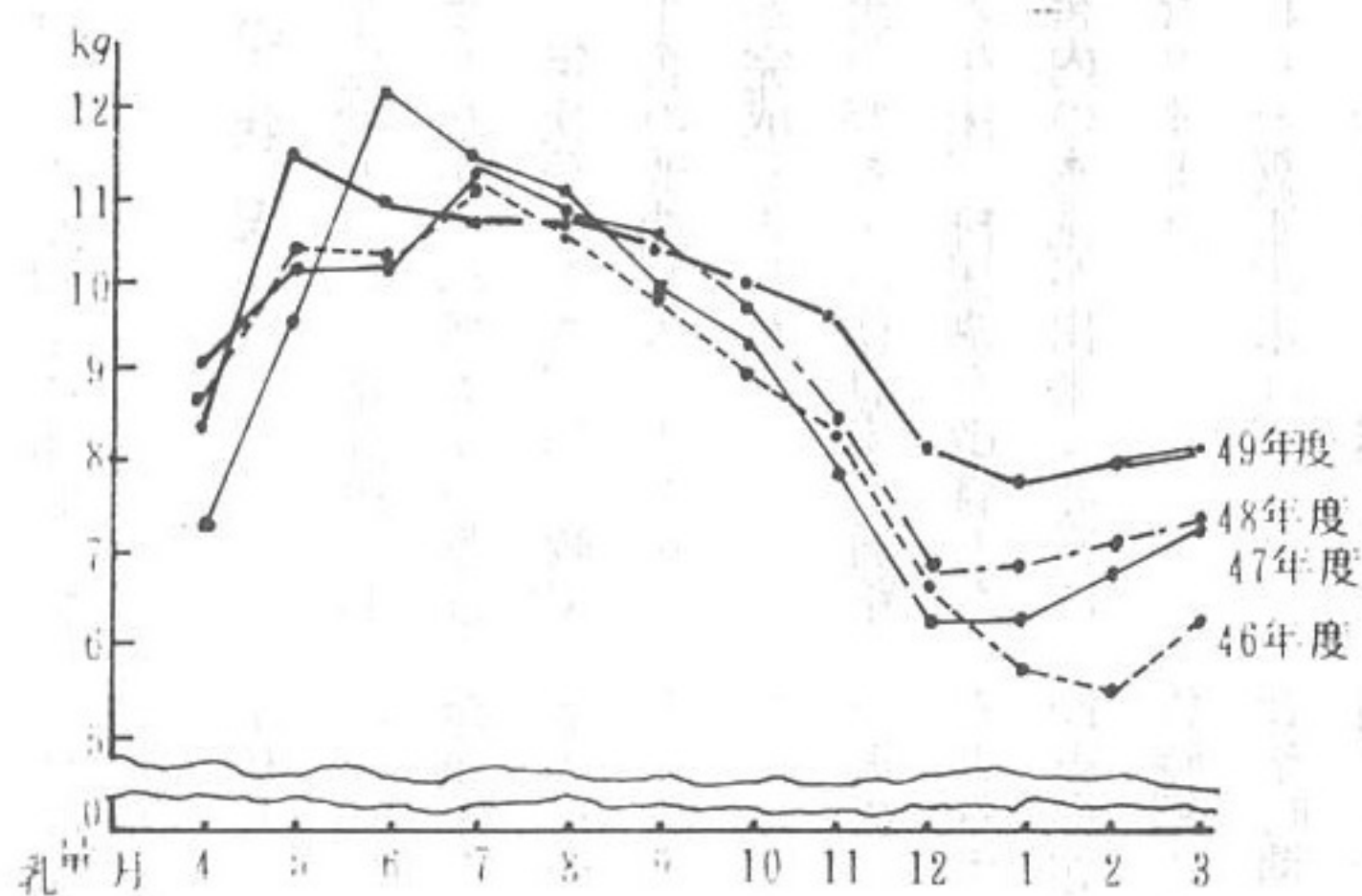


図-2 月別1日1頭平均泌乳量



### 卒業生便り

## 海外研修に参加して

第四期生 住 田 益 三

総理府の主催する、青年海外派遣 果となって現われるだろう。  
 で、団員は九十六名で、各十六名づつ六班に分れ、私達アジア第二班は、本の大学で七年間の生活経験をし、韓国、タイ、マレーシアの三ヶ国を訪問し、ホンコン、シンガポールを経由国として訪れ、十月三十一日から十一月十四日まで、二週間の交友親善をしました。

### 東南アジア諸国の現実

一、韓国 どこことなく厳めしさ、緊迫感を感じた。言い換えれば、国民が団結して国のために邁進している感じだった。セマウル運動や食糧自給達成目標をたて、又貯蓄を奨励し、そして第三次五ヶ年計画の実施中であつた。以前韓国へ行かれた先輩の言葉にあつたように、青年の多くは、国家に尽すことを使命と感じ、自らの幸は、国の繁栄にあるという意識に基き、野性味たつぷりに力強く生きており、同世代に生きる青年として、魅力を感じるとともに、目的を持って生きる人間と、そうでない人間との相違は、今後大きな結

害を乗り越え、みんなで、祝福してあげることができました。

おわりに、ある雑誌に、タイを訪問された人が書いておられたが、一見、のびのびとした東南アジアにも若者達は、日本をはじめとした外国産の車にあこがれ、乗ることを誇りとしていくように、欧米化した生活へのあこがれは、しのびよっているのであるうか、彼等の欧米化された良い良さと、欧米化された物質的な生活の便利さが両立するような、道を進むよう、東南アジア諸外国の経済発展を日本は援助すべきであると思ふ。



マレーシア住民と共に

## 卒業生からの贈呈品について

岡山県立酪農高等学校が昭和三六年 一月設立され、卒業生も県立四期財団九期生を送り、その数も県立八四名、財団二九八名内女性二四名、総数三二二名となりました。そして卒業毎に諸君から寄贈して、載いた善意の記念樹、記念品も別紙の如くなりました。あ、あの樹は俺達が植えたのだ。あの時計は私達だったと在学中を思い出された事と思います。君達の手で植えてくれた桜も年々オ々春ともなれば、ほゝえみを見せ度い有難うと。

### 卒業生からの寄贈品目録

区分	期	年度	品名	数量	備考
県立	1	38	苗木 <small>ヒマラヤダシ</small>	3本	教室の北側広場
〃	2	39	時計	1	第1牧場
〃	3	40	苗木 桜	30本	寮より本館への通路
〃	4				
財団	1	41	時計	1	事務室使用
〃	2	42	テーブルクロス	1	講堂演卓用
	3	43	時計	1	43.11.3 福田神社境内 に於てはれがそ 大会に出場者入 に大金に購寄
〃	〃	〃	時計	1	食堂使用
〃	〃	〃	植樹 松	2本	講堂玄関前
〃	4	44	苗木 桜	30本	お手播場周囲
	4	〃	優勝カップ	1	44.11.3 福田神社境内 に於てはれがそ 大会に出場者入 に大金に購寄
	5	45	時計	1	教室
	6	46	校旗	2	
	7	47	牛魂碑	1	運動場東側
	8	48	学校標識	2	第1, 第2牧場入口
	9	49	暗幕	1組	教室

# 大 学 校 日 記

\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*

四月五日

第十期生の入学式を挙る。栄えある入学式には、中国四国農政局生産流通部長を始め、多数の来賓者の臨席のもとで祝福をうけ、二十七名(内女子三名)が酪農大学生として第一歩を踏みだした。

四月二十二日

蒜山地区体育協会の開催による春季定例体育会のバレーボール大会に、本校選抜強豪チームが参加したが、日頃に於ける練習不足のため、第一回戦において惜しくも大差なしに黒星をマークして退散する結果になった。

四月

牧場の放牧開始。今年は例年になく豪雪にみまわれて、牧草の伸びが遅れて、第一牧場は四月十二日から第一牧場は四月二十一日より放牧開始して泌乳量の増産が期待される。

四月十八日

三木ヶ原の自然草地の火入。自然草地四ヘクターに次々と火入され、自然草地は一瞬の内に猛煙と火柱を蒜山山麓の一角に一時は色どらせた。

五月九日



入寮し、蒜山高原を一望に眺める三木ヶ原で夏の夜を楽しんだ。

八月九日

第九期生の集合研修会開催。第一日は第九期生と十期生の親睦交換ソフトボール大会を蒜山小学校のグラウンドで熱戦を転回して、十期生が優勝した。夜は三木ヶ原寮の広場で盛大なキャンピングファイヤールを行い蒜山三座の夜景を眺め二度とこない青

岡山NHK、テレビ局企画による「酪農大学校を訪ねて」という映題でテレビ生中継が実施され、本校の概要が中国四国地方に紹介された。放映後は各県より多数の視察者が訪れ、卒業生からは母校を忍ぶ懐かしみの便りが届いた。

七月二日

三木ヶ原寮の使用開始。炎天下での乾草作り、サイロ詰めの日作業で学生の健康管理を考え半数交替に

第九期生始業式挙行。第九期生が校外研修をおえて、全員登校し各研修地で体験した実技を生かし一段と成長した態度が認められた。

十月十六日

全国ジャージー大会開催、日本ジャージー登録協会主催により、ジャージー導入二十周年記念行事が盛大に本校において開催され、我が校のジャージーも参考牛として共進会に出品した。午後からジャージー種の普及振興が催され、大会宣言を我が酪農大学卒業生、長綱義則君が力強く朗読して満場一致の賛同をえた。最後に本校でジャージー雌牛短期肥育した試食会をヒルセンハイツで行ない仲々の好評を受けた。

十月二十九日

大型トラクター免許試験実施。例年により蒜山高校のグラウンドで実地試験を実施し、受験者全員が合格した。本年は天候に恵まれて、グラウンド整備は簡単に出来た。

十二月二十四日

学生主催のクリスマスパーティーを本校講堂で開催した。学生の班別の演劇やかくし芸、途中からは招待された先生等の迷声聞き、冬の白夜を驚かせた。

五十年一月二十八日

毎年開催される家畜人工授精講習会を全員受講、二月十二日十三日に修業試験が実施された。学生の粘り強い努力の結果好成績で合格し今後の家畜人工授精業務に期待を感じる。

二月二十、二十一日

第十一期生(昭和五十年)の入学試験実施する。四十三名の志願者中二十七名(うち女学生四名)の合格者が二月二十五日発表された。

三月二十八日

第九期生の卒業式挙行。例年になく好天候で、多数の来賓各位の祝福を受け、三十名の酪農経営士が誕生し我が学園を巣立っていった。



人の動き

昭和五十年四月一日付けで定期人事異動により次の人が異動されましたのでお知らせいたします。

教育部長 小谷恂一 井笠家畜保健衛生所畜数家畜衛生センター

第二牧場長 杉山哲也 岡山家畜保健衛生所

第一牧場助手 川村貞次 岡山県和牛試験場

現職員名簿 (昭・50・4・1現在)

校長 田淵志郎

副校長 永井 仁

次長 有安 肇

総務部

部長 宇山和男

主事 太田清志

主事 長尾敏彦

運転員 山口 錬二

教育部

部長 日笠重雄

教務課長 新田 正

主任助手 常守 実

主事 津田清子

調理員 戸田道子

調理員 浅原 茂登恵

衛生課長 湯浅進一

第一牧場長 奥 一郎

助手 金森孝史

第二牧場長 赤木三夫

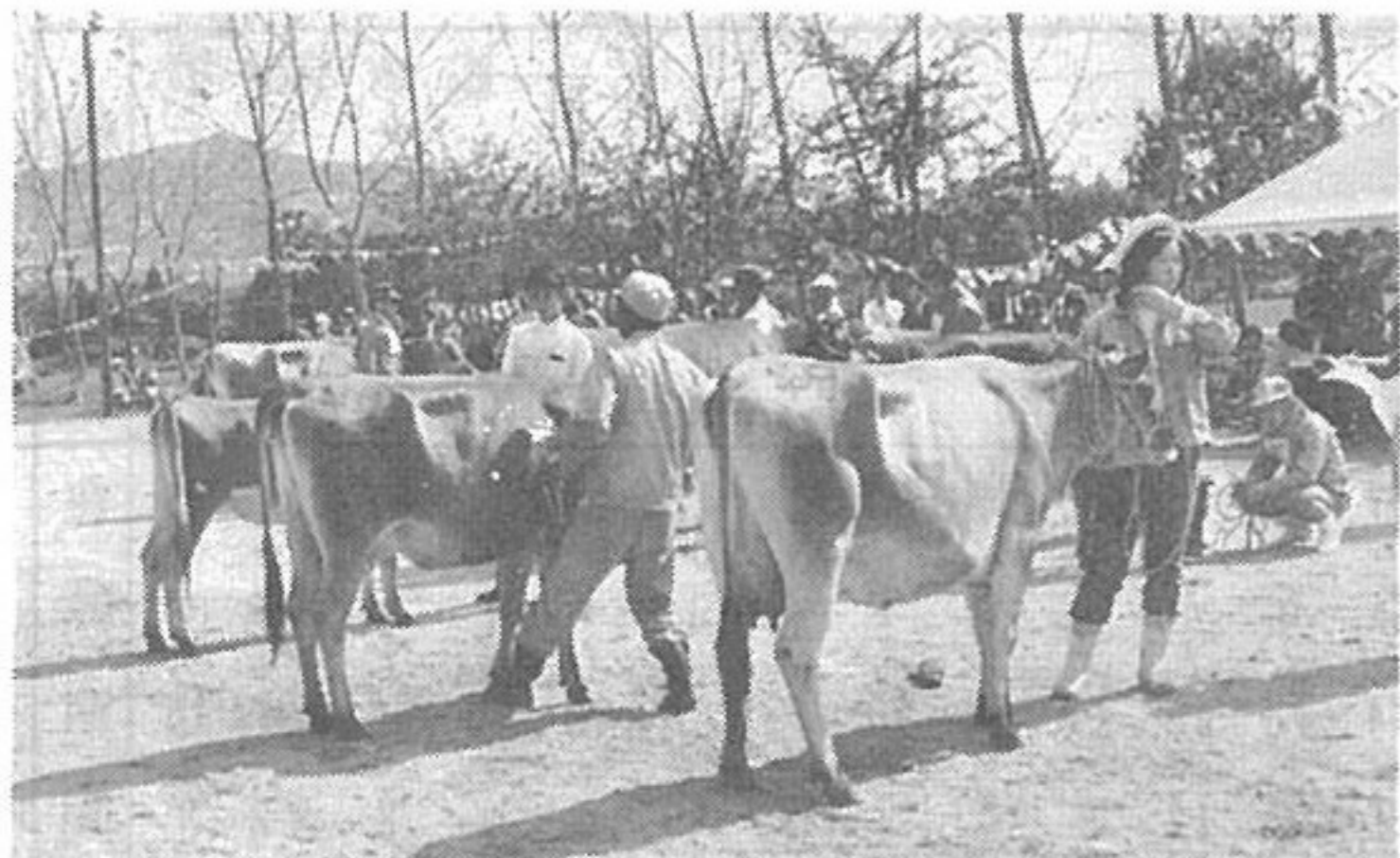
第二牧場副場長 百野 勇

技師 尾崎厚一

技師 居森一憲

主任助手 美土路 啓典

助手 三牧 孝徳



酪農大 学校旧職員名簿

職名	在職期間	氏名	現住所	勤務先	備考
校長	36・12	惣津 律士			
校 長	38・4	蔵知 毅			
校 長	42・5	花田 時太			
校 長	47・3	花田 卓司			
校 長	48・3	金島 省吾			
校 長	47・3	花尾 省吾			
校 長	42・3	上原 茂喜			
校 長	44・5	中島 大二			
校 長	47・3	今本香豆彦			
校 長	44・3	小谷 恂一			
校 長	47・3	浅羽 昌次			
校 長	42・3	田中 正志			
校 長	44・3	伊丹 義胤			
校 長	41・3	藤川 武雄			
校 長	44・3	小川 清美			
校 長	45・3	竹原 宏			
校 長	42・5	神野 一雄			
校 長	37・3	豊田 繁正			
校 長	39・3	石原 和夫			
校 長	41・3	横見瀬 広徳			
校 長	43・3	狩野 理美			
校 長	45・3	石井 達夫			
校 長	47・3	道繁 孝一			
校 長	49・3	石田 正之			
校 長	46・3	三秋 尚			
校 長	36・10	花房 猛			
校 長	41・3	日笠 重雄			
校 長	44・3	守屋 典彦			
校 長	48・3	森 大二			

編 集 後 記

卒業生の皆さん元気で、日夜酪農諸業務に精励のことと思います。

当大学校は、財団法人として設立されて、本年度で十周年を迎えることになりました。これを記念して学園だよりを発行するよう計画したが、紙面の関係上から本号は、学校の施設整備の状況、牧場の現況、旧職員及び卒業生名簿等に止めざるを得なくなりました。

今後、卒業生の皆さんと学園との有機的連繫を深めて編集内容を充実して発展いたしたいと思しますので皆さんの御寄稿と本だよりに対する意見などお寄せください。

